

# 土壌インベントリ事業岩手講習会

開催日：2007/06/27（水）晴れ

開催地：岩手県盛岡市上米内

## 記録

東北各県の試験場の担当者を対象とした、講習会を行った。各県からの参加者は13名、森林総研東北支所から5名、森林総研本所から4名が参加した。会場は岩手県林業技術センターの方にグレード1の調査地から選択していただいた。盛岡市上米内にある民有林で、インベントリ調査地点ID030340に当たる。道路から50m程度入った森林にプロットが位置しており、集合しやすい場所であった。梅雨の盛りで天候が心配されたが、当日は晴れで、盛岡で30°Cにも達する気温の高い日であった。



枯死木見本の観察

調査地は、プロットの半分以上がアカマツ人工林であり、残りがスギ、ヒノキ人工林によって構成されていた。傾斜は10~20度程度で、緩やかな平衡斜面上に位置していた。プロット脇の作業道上で、前日に準備しておいた枯死木見本の観察から行われた。針葉樹の見本がアカマツ枯死材であったため、スギ・ヒノキとの多少の違いを説明されたあと、おのおのの担当者が分解程度の違いを体感した。1段階程度の違いは誤差の範囲内であること、目視では分解程度の細かい違いがわからないので比重の違いに注目すること、などの点について説明がなされた。

プロット内に移動し、作業工程の説明が一通りなされた後、炭素蓄積量調査地点の4地点のうちの北側地点を観察した。ここは、前日にあらかじめ断面が作成されていた。北側地点はアカマツ林内に位置し、通常あまり現れることが無いH層が認められ、火山灰質の土壌であることを確認した。

その後、3班に別れて、残りの炭素蓄積量調査地点にて、各県担当者による実習が行われた。アカマツ林内にチシマザサが繁茂していたために表層の根が多く、円筒採取の際の根の扱いの注意点が説明された。礫がほとんどなかったため、下層の円筒採取は非常に容易であった。実際に行うことができなかったが、礫がある場合の円筒採取の注意点や、ブロックサンプリングの方法について口頭で説明された。火山灰質の土壌と植生の違いから、A層の色の濃淡や埋没A層が存在する地点があったりする等、4つの地点での違いを確認することができた。

終了後、代表断面地点の決め方について説明がなされ、中心部と同じ植生で似たような斜面位置にあるプロット北側で代表断面の作成が行われた。また、前日、プロット南東のスギ・ヒノキ林内に別に作成した断面の観察と記載も



断面の説明



代表断面写真 BD(d)

平行して行われた。土壌はやや乾性の性質を示しており、2つの断面ともにBD(d)と判定された。特に、代表断面の方はH層が存在し、BB型に近いBD(d)と考えられた。時間が押していたため、全ての断面記載の説明をする事は出来ず、層位の分け方や、土壌の色と構造に絞って担当者に説明された。断面から取り出した土壌を触って、粒状構造や塊状構造がどのようなものであるかを担当者が直接体感した。鈎質土層と、礫・有機物の仕分けについての質問を受け、本事業では断面の記載に従って分析用の土壌サンプルをわけることが説明された。

本講習会は、天候に恵まれ、プロットまでのアプローチがしやすく、サンプリングしやすい火山灰質土壌であったことから、経験の少ない担当者にとって、一通りの作業工程を学習するのに有意義な講習会であった。

また、経験豊富な担当者にとっても、現場での議論を通して、本事業での記載やサンプリングに関する細かい取り決めを確認できる良い機会であった。一方、礫が多かったり急傾斜である場合のサンプリングの対処法や、断面記載の説明など、時間の都合で十分カバーできなかった。そのため、今後、個別の協力関係を強化して、さらなる調査技術の向上を図る事が望ましい。



集合解散地点

(稲垣昌宏)

#### 参加者（敬称略）

森林総研 東北支所	赤間、平井、小野、志知、西園
森林総研 本所	森貞、吉永、家原、稲垣
岩手県林業技術センター	小林、高橋、木戸口、栗野、岩館
宮城県林業試験場	梅田、佐々木、田中
秋田県林業技術センター	澤田
山形県森林研究研修センター	大泉、新田
福島県林業研究センター	松崎、今井

9:15 盛岡駅集合

9:50 現地着

10:15 枯死木見本の説明

10:30 林内で説明 班分け

11:20 炭素蓄積量調査実習

12:00 昼食

12:50 炭素蓄積量調査実習（続き）

15:15 主断面の説明

17:30 解散